

おかやまIT経営力大賞 応募様式B(実践内容) 記入例

I. 経営視点での環境や課題(重要度:7.5)

《自社の特徴(強みと弱み)》

○今後も維持強化したい「強味」、改善が必要な「弱み」を明記する

<強み>

①他社は価格重視であるが、自社は品質、アフターフォローや、プラント建設まで対応しており、顧客からも設備に関する相談もできると評価を得ている。

<弱み>

- ①データ活用、IT利用面での導入が遅れており、業務が効率的が進んでいない。
- ②属人的な業務が多く、標準化が進んでいないため、社員の育成に時間がかかる。

《外部環境が経営に与える課題》

○経営への外部環境による影響と将来の経営課題を明記する

- ①少子化で食品市場が縮小傾向、将来のために新たなビジネスモデルの確立が必要。
- ②材料不足により、納期や価格の変更が多くなり、取引にかかる時間が増加。
- ③災害等によるサーバ損壊、データ紛失、情報漏洩に備えてデータ保全の取組みが必要。

《内部環境が経営に与える課題と要因》

○経営改善のために解決しなければならない社内の課題とその要因を明記する

- ①業務が紙中心の業務フローとなっているため、可視化、効率化への障壁となっている。
- ②取引先等が多く、発注、仕入れ、支払、納期、価格交渉など取引にかかる時間が膨大である。

《IT利活用で解決すべき課題と要因》

○上記までに記した課題で、ITにより解決できる課題と要因を明記する

- ①属人的業務や紙による二重管理が多いため、効率的な業務への見直しが必要。【内部環境①に対応】
- ②取引時間短縮のため、紙取引から脱却しタイムリーな取引が必要。【内部環境②に対応】
- ③セキュリティ対策が不十分で、明確なルールが存在していないため対策が必要。【外部環境③に対応】

今回の応募における成果につながる取り組みの開始時期を記載してください。  
平成 令和 ( ) 年 (概ね5年以内の取り組みとしてください)

## おokayamaIT経営力大賞 応募様式B(実践内容)

### II. 課題の解決策と目標(重要度:3.5)

#### 《要因と対策》

##### ○「I. 経営視点での環境や課題」列記した要因と対策を明記する

- ①システムを導入し、紙中心業務からシステムに沿った業務フローに変更し、標準化と効率化を図る。
- ②取引業務をタイムリーに行うため、システムを導入し取引時間の短縮を図る。
- ③データのバックアップ体制と、メール誤送信による情報漏洩の防止を図る。

#### 《実施計画(対策と実施方法等)》

##### ○《要因と対策》で明記した対策をどのように実施したかを明記する

- ①システムを導入するため、全社業務を1枚の業務フロー図に作成し、導入システムを検討・を導入。
- ②取引業務の効率化(郵送、FAX取引からの脱却)として、セキュリティ対策が施された取引が可能なシステムを検討・導入。
- ③情報セキュリティポリシーを策定し、バックアップサーバの導入と、メール誤送信を導入。

#### 《経営改善目標および課題解決目標》

##### ○《実施計画(対策と実施方法等)》の施策による経営への改善目標と取組組織での課題解決による効果を明記する

- ①社内業務の標準化と業務の効率化。
- ②システム利用により、調達業務〇〇時間/月、通信費等コスト〇〇万円/月の削減
- ③バックアップサーバ導入によりデータ喪失ゼロ、情報漏洩の最大要因と言われるメール誤送信ゼロ

## おかやまIT経営力大賞 応募様式B(実践内容)

### Ⅲ. 課題解決策の実行(重要度:5.0)

《課題解決の緊急性・重要性・影響度に対応した進捗管理と完結度》

①重要度

○経営視点および組織毎の重要度を分析し明記する

・経営目標達成を目指すため、創造的業務に取り組む時間を創出し、経営基盤を強化した。

②緊急性

○経営視点および組織毎の緊急性を分析し明記する

・課題解決のため各システムを導入し、業務の標準化と効率化を図った。

③経営への影響度

○課題(改善施策)毎の経営への影響度を明記する

・情報セキュリティポリシーを策定し、インシデントの発生防止と、データ消滅、情報漏洩を防止し、お客様からの信用を維持した。

《改善施策実現の為の推進体制》（役割の明確化、経営層のスポンサーシップ、人材育成）

○全体の統括責任者、施策ごとの実施責任者、施策導入の対象組織メンバー全員による参加などの役割

○施策の実施にあたって経営層がどの様にサポートしたか

○IT化による運用スキル等の習得方法

・毎月の定例会とシステム導入時は毎週会議を実施し、スケジュール管理を実施した。

・節目の会議には責任者が必ず参加し、関連性や取組内容の説明など積極的に参画した。

・システム導入は、若手社員をリーダーとし、会社全体の最適観点で検討し作業を完遂した。

《ITリスクへの取り組み状況》（セキュリティ対策、ウイルス対策、機密保護対策）

○運用管理や社員の情報リテラシー等の情報漏洩対策

○ウイルス感染対策などのネットセキュリティ対策

・情報セキュリティ強化のため、「情報セキュリティポリシー」を策定し、社内に説明実施。

・ウイルス対策ソフトの全PCにインストールと最新の更新プログラムが適用されているかチェックを実施。

・重要データ紛失に備えて、バックアップサーバ、NAS、クラウドバックアップを導入し、毎日定時に自動でバックアップされる仕組みを導入。

《対策の実行までの取り組み》（過去3年間の取組）

○成果を上げるまでの取組みを明記する

- ・〇〇〇〇年 〇月:プロジェクト発足
- ・〇〇〇〇年 〇月:〇〇〇〇対策検討開始
- ・〇〇〇〇年 〇月:〇〇〇〇システム導入検討
- ・〇〇〇〇年 〇月:〇〇〇〇システム導入
- ・〇〇〇〇年 〇月:〇〇〇〇システム導入結果検証

## おかやまIT経営力大賞 応募様式B(実践内容)

### IV. 課題解決で得られた成果(重要度:7.0)

《定量的効果》(売上増大、利益増大等の効果を数字で表す)

#### ○経営改善に寄与した効果を施策ごとに明記する

- ・取引業務をオンライン化し、調達業務:〇〇時間/月削減、通信、費等コスト:〇〇万円/月削減
- ・データ喪失:ゼロ、メール誤送信:ゼロ

《定性的効果》(サービス等の質や社員のモチベーションの向上等)

#### ○確認できた定性的効果を明記する

(顧客満足度や社員のモチベーションなどは、アンケート結果等により確認できたか効果を表す)

- ・オンライン取引により、定型業務に割いていた時間を、さらなる生産性向上を目指すために時間を割けるようになり、生産性も向上した。
- ・IT構築に携わった若手メンバのモチベーションが向上し、成長へのきっかけとなった。
- ・社員の情報セキュリティ意識が向上し、セキュリティに問題の可能性がある場合は、社員から積極的に相談が寄せられるようになった

《付随効果》(当初目標になかった成果等)

- ・新しい方法や品質向上に向けた挑戦が自主的に行われている。
- ・情報は個々人がPCに保存していたが、データが社内サーバ上に保存・整理されるようになり共有化が図れた。

《将来性》

#### ○施策の他部門への展開による更なる経営改善や、施策により得た成果や改善施策そのものが、新たなサービス開発や協業などの経営改革につながる可能性を明記する

- ・収益安定を目指すため、システムに集積されたデータを活用し、売上拡大、さらなる効率化、改善を行う。
- ・データの分析とデータ活用により、迅速な経営判断、営業効率の向上、及び新たな営業スタイルの創出、新規事業への進出を目指す。

## おかやまIT経営力大賞 応募様式B(実践内容)

### V. 課題解決で実施したIT技術(重要度:3.5)

《他社のIT利活用の参考度合い》

**○取組施策の他の事業者や他社への展開の可否や展開事例を記載**

- ・ITベンダ任せでなく、自社主導でプロジェクトを進めた。
- ・将来の社員のために役立つシステムを構築するという意識を持ち主体的に対応した。

《取組施策の先進性》

**○県内や業界内で初めて実施したなどを記載**

- ・クラウドサービスを利用することで、取引先等に大きな負担をかけることなくシステム導入ができた。
- ・必要データを自由な形式で抽出できるツールの活用により、各種集計や判断が迅速に可能となった。

《独創性の有無》

**○業界初であったり、IT施策のオリジナル性を記載**

- ・社内のみでなく、協力会社も巻き込んで、一斉にオンライン取引をスタートさせた。

### VI. 今後の課題

○施策により当初の課題は解決されても、それにより新たな課題が生じたり、施策により新たな発見があれば記載

- ・更なる業務の効率化のため、最適なシステム導入に向けた新たなプロジェクトを発足させる。
- ・定型業務については、OCRやRPAを導入し、さらなる効率化・自動化を図る。

### おかやまIT経営力大賞 応募様式B(実践内容)

【1. IT活用概念図】 ※業務フロー、システム概念図等、事業全体と取組対象業務やシステム全体と応募事例でのIT活用の関係がわかる図を添付してください。  
(空白ページに貼り付けてください)

【2. 組織図】 ※組織図(概略図)があれば添付してください。  
(空白ページに貼り付けてください)